

令和5年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 歴史博物館

評 達 成 度 基 準	達成	(目標値 $\geq 100\%$)	○
	ほぼ達成	(目標値 $\geq 80\%$)	△
	未達	(目標値 $< 80\%$)	×

○全館共通項目

	取組の内容	自己点検			評価 第三 者
		達成度	課題・対応の方向	今後の 評価の コメント 性等の提 び	
	1年間の目標値	達成値 ※ () は「1年間の目標値に対する達成率	達成度	課題・対応の方向	評価の コメント 性等の提 び
利用者満足度	90% (かながわグランデザイン第3期素案PJ 14の指標(県立社会教育施設利用者満足度 2022年度 90%)を参考とした目標値)	・様々な機会をとらえて来館者アンケートを実施し、意見を活用して改善を行う。	96.1% (106.8%) 【参考：アンケート回答者数】 R3年度： 1,034 R4年度： 1,202 R5年度： 1,031	○	・様々な機会をとらえてアンケートを実施し、当館への意見を収集・検討・反映するよう努め、充実した展示や講座等を企画・実施していくことで利用者満足度の維持・向上を図る。
利用状況	入館者 ※ R4年度1日平均入館者数(302)にR5年度開館日数(295)を乗じた数	・集客力ある展覧会や各種事業の実施 【参考：R4年度実績】 入館者数：88,789 開館日数：294日 1日平均入館者数：302	129,784人 (146%)	○	・時宜を得た特別展を実施したことに加え、講座等の関連事業を積極的に実施したこと、無料観覧日を実施したこと等が来館者の増加に寄与したと考えられる。 ・また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し人流が増加したことも入館者数を押し上げる要因になったと考えられる。 ・引き続き充実した魅力ある展覧会・講座等を企画・実施する。

教育・普及事業への参加者	3,500人	<p>R5 実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>行事名</th><th>件数</th><th>参加者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座・講演会等</td><td>25</td><td>987</td></tr> <tr> <td>展示解説</td><td>30</td><td>973</td></tr> <tr> <td>体験教室・見学会</td><td>13</td><td>200</td></tr> <tr> <td>ミュージアムコンサート</td><td>1</td><td>47</td></tr> <tr> <td>ミュージアムミッション</td><td>1</td><td>477</td></tr> <tr> <td>計</td><td>70</td><td>2,684</td></tr> <tr> <td>出張講座</td><td>18</td><td>1,977</td></tr> <tr> <td>総計</td><td>88</td><td>4,661</td></tr> </tbody> </table> <p>【参考：オンライン配信（Youtube）】</p> <p>特別展展示解説動画 2本 特別陳列関連動画 5本</p>	行事名	件数	参加者数	講座・講演会等	25	987	展示解説	30	973	体験教室・見学会	13	200	ミュージアムコンサート	1	47	ミュージアムミッション	1	477	計	70	2,684	出張講座	18	1,977	総計	88	4,661	4,661人 (133%)	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い一部講座等の参加者定員を増やしたこと、出張講座の参加生徒数が増加したことなどにより達成率が高まった。 ・今後も引き続き魅力ある講座等を企画・実施するとともに、学校等への積極的な周知を継続する。
行事名	件数	参加者数																													
講座・講演会等	25	987																													
展示解説	30	973																													
体験教室・見学会	13	200																													
ミュージアムコンサート	1	47																													
ミュージアムミッション	1	477																													
計	70	2,684																													
出張講座	18	1,977																													
総計	88	4,661																													
インターネットアクセス	(R4実績) 2,041,062件	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの安定的な管理運用を行う。 ・ホームページの適宜更新を行い、最新のわかりやすい情報提供に努める。 	2,651,667件 (130%)	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> システムの安定的な管理運用を継続する。 ・「神奈川県立歴史博物館デジタルアーカイブ」に125,507件のアクセスがありHP全体のアクセス数に大きく寄与していると考えられることから、今後、内容の一層の充実を図っていく。 ・ホームページについて、引き続き内容の充実や最新情報の提供に努める。「おうちでかながわけんばく」に継続してコンテンツを追加し、アクセス数も向上している。 																											

資料・収蔵品	(特別利用) (R2, R3, R4 3か年平均) 210 件 581 点	<ul style="list-style-type: none"> 写真資料の特別利用について、申請者に適切な指導を行い、事務手続を円滑に遂行する。 <p>【参考】</p> <p>3か年平均：210 件、581 点 R2 年度：231 件、588 点 R3 年度：196 件、646 点 R4 年度：203 件、508 点</p>	196 件 (93%) 662 点 (114%)	△	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し他館展覧会の開催回数が増加したことなどが点数を増加させた要因と考えられるが、画質にこだわらない一定数の利用者が費用負担の生じないデジタルアーカイブからの画像ダウンロードを選択したことにより利用件数が減少したと考えられる。 こうした選択によって特別利用の利用件数が減少することはデジタルアーカイブを公開する際に想定していたところであり、デジタルアーカイブの利用者とともに、引き続き特別利用を選択する利用者へ充実したサービスを提供していく。
	(常設展示室における展示) 約 1,400 件	<ul style="list-style-type: none"> 再開館当初の展示資料数約 900 件をベースに、年 7 日設けられた常設展のための資料整理休館日を活用して約 500 件を入れ替え紹介する。(ただし、このほかに特別展に展示する館蔵資料もある。) 	1,685 件 (120%)	○	<ul style="list-style-type: none"> 今後も常設展での積極的な展示替えに取り組み、トピック展示や、特別展・コレクション展の関連資料展示などのテーマ性を持ったミニ展示にも力を入れて、魅力ある常設展を開いていく。

維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 自然的要因を除く毀損(汚破損)の防止。 計画的な資料修繕。 	<ul style="list-style-type: none"> IPM(総合的害虫管理)を継続する。 資料受け入れ時に適切な保存処置を行う。 必要に応じて薬剤燻蒸を実施する。 収蔵庫及び展示ケース等の環境調査を定期的に行う。 修繕計画の見直しを行い、順次実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき収蔵庫等の定期清掃、環境調査、資料燻蒸、展示室の空気環境調査ほかを実施。 特別展示室ケース内の換気を継続的に実施し、展示環境の改善に努めた。 修繕計画に基づき優先順位の高い2件の資料修繕を実施。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 館内の保存環境を維持するため、今後も空調機器のメンテナンス等を計画的に実施していくとともに、収蔵庫や展示室の日常的な環境管理にもさらに注力する必要がある。 予算の制約からひとつの資料群を一括で修繕することが難しいため、より詳細な修繕計画を整備するなど、計画を見直す必要がある。
調査研究	(常勤学芸員14名×5件、非常勤学芸員5名×4件) 90件	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費助成事業等の競争的資金も積極的に活用し、研究論文・展示・各種講座等により、研究成果の幅広い発信に努める。 	172件(191%)	○	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動のさらなる充実にむけて、研究費の確保と研究環境の整備に継続的に取り組んでいく。 今後も外部研究資金の獲得に努めるとともに、論文・展示等による成果公開の質的向上を目指す。
情報発信	事業情報の発信 (R2, R3, R4 3か年平均) 662件	<ul style="list-style-type: none"> HP(X(旧Twitter)含む)を活用した情報提供や刊行物、マスメディア(紙・電波媒体、ネット)による情報発信 <p>【参考: 発信数】 3か年平均: 662件 R2年度 : 643 R3年度 : 653 R4年度 : 690</p>	695件(105%)	○	<ul style="list-style-type: none"> 新聞社やテレビ局、出版社等にチラシ等を発送するのに加え、別途プレスリリース資料を作成するなど、積極的に広報を実施する。 また、X(旧Twitter)での情報発信を、なるべく一日一回以上行うほか、新たな情報発信手段として運用を開始したInstagramを活用し、新たな層への情報発信を試みる。
施設運営等	観覧料及び事業等収入 (R5予算書の収入積算額) 24,573千円	<ul style="list-style-type: none"> 来館者増につながる展覧会の開催など各種事業の実施 	27,904千円 (114%)	○	<p>令和5年5月8日に新型コロナが5類感染症に変更され、通常の運営ができるようになったとともに魅力ある展示・事業の実施により、来館者増につながった。</p>

施設点検	高齢の来館者への配慮	・展示解説の読みやすさや館内の休憩スペース等高齢者の視点に沿った点検を行う。	グラフックパネル5年度分の更新	○	防災用具を収納する長椅子を増設（4台）した。	
自己研鑽及び他館の研究	職員の研修受講件数 7件	学芸員をはじめ、すべての職員が研修等に着実に参加し、資質向上を図る。 【参考】 令和4年度実績：6件 学芸部：4件 管理課：2件	10件（143%） 【内訳】国等3件、県博協5件、館内2件	○	・今後も、国や県博協等が開催する研修会等にも積極的に参加し、学芸員と職員の資質向上を図っていく。	

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。